

虹とサインペン

2025.4.15

この前、虹を見た。幼稚園への通勤途上だった。ふと、ある方のことが思い浮かんできた。虹は、いつ見てもきれいである。「あっ、虹だ」と何だかうれしくなるのはなぜだろうか。そういえば、虹が出ることを予想したことがない。そろそろ虹が出そうだなどと心待ちにしたことはない。いつでも、不意に虹は現れる。

幼稚園・こども園会の仲間に入れていただき、2年目がスタートした。たった1年でも、様々な会議や研修会に参加していると、自然と知り合いは増えていくものである。2月だったか、他の幼稚園にお邪魔したことがあった。研修会のためである。そこには、いくつかの園から先生方が集まっていた。

会が終了した。すると、一人の先生が、拙著『人生は、燐燐と』とサインペンをもってきた。サインをしてくれという。いろいろな話をした。私が以前勤務していた中学校の話になった。その学校のホームページのトップ画面には、校舎全体を包み込むような、きれいな虹の写真が出てくる。当時の保護者の方からご提供いただいたものである。その先生のお宅からは、同じような虹を見ることができるという。あの見事な虹を見られるのは幸せなことである。

その先生とは、何度か研修会などで一緒にいた。しかし、改めてお話をするのは初めてだった。今までも、いろいろな方からサインをしてくださいと言われることはあった。しがないアマチュアの自称エッセイストである。サインをするなど、おこがましいにも程がある。そう思っていた。

だが、目の前に本とサインペンを出されてしまうと断るわけにもいかない。特に、サインペンまで出でくると観念するしかない。その本には、付箋が貼ってあった。そこまで読んでいいただいているのか。聞けば、とりわけ中学校ネタに反応していただいている。その方の恩師は、私の知り合いで也有った。しばし、時計の針を戻すことができた。若い頃のことが蘇ってきた。

今までそうだが、サインといつても、その方に向けたメッセージを書くようにしている。したがって、お一人お一人書いていることが違う。今回も、そのときに思い浮かんだことを書かせていただいた。

その方は、この4月から新たな職場でご活躍中である。きっと、生き生きとエネルギーに動いていることだろう。それが、まわりにも好影響を与えているのではなかろうか。それだけの魅力を備えた方である。

わずか1年でも、人との出会いは意外とあるものである。出会うことができた皆さん、この1年の活躍を祈らずにはいられない。今度、虹を見る能够るのは一つのことになるだろうか。それはわからない。でも、楽しみにしていたい。